

コメディリリック第4回「この振る舞いを見ろ」

「クラウドファンディング」

登場人物

広司 野彦

中野 シロスコフ

※広司、伊藤、板付き

【し・明転】

「腹減ったなー」

「なー」

「でも金ねえよ。学もねえし、品もねえ。カロリーだけだよ。あるのは。質の悪いカロリーだけ」

スマホ、ぼちー

「よし、焼肉行こ」

「え、マジで？」

「うん」

「え、金あるの？」

「今（スマホを動かし）1万円できた」

「え、どういうこと？」

「クラウドファンディングだよ」

「え」

「お前知らない？クラファン」

「なんとなくは知ってけど…」

モニタークラファン①

「クラウドファンディングとは不特定多数の人がインターネット経由で財源の提供や協力などを要請することを指す」

「うんうん」

モニタークラファン②

「クラウドは群衆という意味で、ファンディングは資金調達という意味である」

「理屈はわかったんだけど、それで何でお前が1万円手に入るの」

「それは今、俺が群衆に呼び掛けたからだよ『お腹が空いた』って」

「え、それで1万円入れてくれる人がいるってこと？」

「そうだよ」

「マジで？なんで？」

「お腹が空いた俺に協力してくれたんだよ」

「え、お前みたいな人間にお金をくれる群衆がいるってこと？」

「そうだよ」

「お前ごときの人間に」

広司 「ごときつてなんだよ」  
中野 「いや、そんなんでクラファンしたらダメだろ」  
広司 「別によくはない？俺よりしようもないのいっぱいいるよ？ヨットで世界一周したいとか、脱サラしてパン屋やりたいとか、知らないバンドがアルバム出したいとか。下北らへんにうじゃうじゃいるよ」  
中野 「いや、それはなんかさ、こう目標があつてのことじゃん」  
広司 「何が変わんないの？同じ欲じゃん。だからお腹空いたとかパチンコしたいとかでファンディングしてもいいじゃん」  
中野 「えーそうなのかなー？」  
広司 「ちゃんとリターンもあるから」  
中野 「お金くれた人に何をお返ししてんの？」  
広司 「国ダジャレをプレゼントしてる」  
中野 「国ダジャレ？」  
広司 「『オランダに行くんだ』とか」  
中野 「…え、そんなんで一万円もらつてんの？」

広司 「そんなんつて言うなよ！めちやくちや真剣に考えてんだから」  
中野 「…他には？」  
広司 「『中国は天国』『スイスにいます』『ノルウェーでウエイ』」  
中野 「…あり得ない」  
広司 「サブカルっしょ？」  
中野 「全然わかんない」  
広司 「最早サブカルよ。それにリターンって気持ちだから。それ目当てでお金出したら商売じゃん？だからいいの」  
中野 「…そんな簡単に金手に入るんだったら3万貸してくんない？」  
広司 「えー」  
中野 「頼むって」  
広司 「3万か…：しようがないな…：服脱いで」  
中野 「え、なんで？」  
広司 「いいから」  
、中野、服を脱ぐ。指示をして無理やり中野に谷間を作る広司、スマホで撮る  
広司 「よし」

スマホぼちー

広司 「3万入った」

中野 「え、マジで」

広司 「うん」

中野 「なんで？どうしたの？」

広司 「リターンにおっぱいの写メをつけた」

中野 「なにそれ」

広司 「おっぱいに釣られて多めに投資する馬鹿がいるんだよ」

中野 「えー」

広司 「エロい奴が勝つ。どの世界でもな」

中野 「いやーでも詐欺じゃん」

広司 「サブカルよ」

中野 「いや詐欺だよ。お前男だし」

広司 「ジェンダーも崩壊してるからもうそろそろ男のおっぱいも価値が出てくるだろうなー」

中野 「そんなことねえよ」

広司 「それに今回は特別にエッチな国ダジャレもつけてるから」

中野 「どんなの」

広司 「『スペインでベッドイン』いや『アルゼンチン、ちんちん』にするか」

中野 「俺、罪悪感出てきたわ」

広司 「そんなもん捨てろ捨てろ！いいか世の中には俺たちが想像できないくらい金持

ってて、使い道を持て余してる金持ちが

いるんだよ。そういう人間がこうやって

クラファンで投資してくれてんの。だから何にも気にしなくていいんだよ」

中野 「いやー…」

広司 「じゃあ3万いいのね？」

中野 「頂きます」

広司 「悩むな悩むな。お前もこっち側の人間

なんだから。サブカル側の人間」

中野 「サブカルは違うと思うんだけど、確かに悩むのは馬鹿らしいな」

広司 「そうそう」

中野 「どんな奴だよ。お前ごときの人間にバンバン金出す奴（笑）」

広司 「どんな奴だろ…え」

中野 「どうした？」

広司 「うちの親だ」

【し・暗転】

ー了ー